

感染症発生動向調査委員会報告 7月

《今月のトピックス》

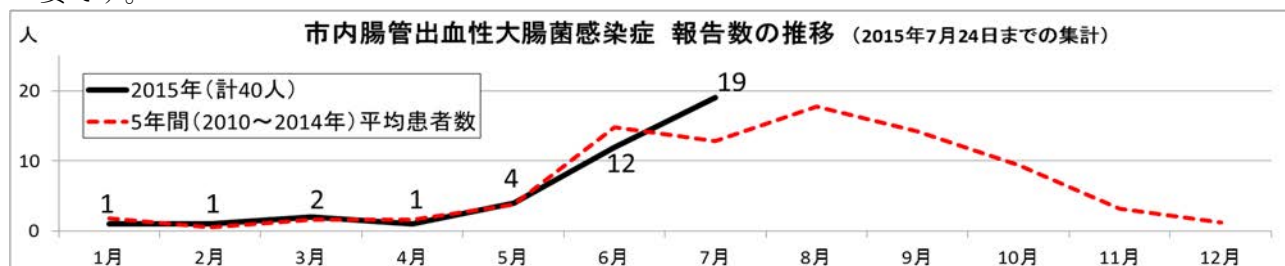
- 手足口病が過去10年間で最大の流行です。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多くなっています。
- ヘルパンギーナが流行しています。

全数把握の対象

【7月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	26件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
パラチフス	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
A型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	7件
デング熱	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	8件
レジオネラ症	5件	水痘(入院例に限る)	2件
アメーバ赤痢	6件	梅毒	4件
ウイルス性肝炎	1件	風しん	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8件		

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: 26件の報告がありました。6月、7月と急激に報告が増加しており、7月は過去5年間の平均報告数を7月24日の時点で既に上回っています。今回報告された事例の中に、溶血性尿毒症症候群(HUS)を引き起こした小児が、精肉店で購入した牛レバー(加熱用)を家庭において生で喫食していた事例がありました。レバーを生で喫食することは避け、肉は十分に加熱(中心部まで75℃で1分間以上加熱)しましょう。また、他には家族内での2次感染事例もありました。2次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。今回は死亡例も出ており、本疾患は10月頃までは例年報告数が多く、注意が必要です。



- 2 **パラチフス**: 1件の報告があり、渡航先(ミャンマー(ヤンゴン))での感染が推定されています。
- 3 **A型肝炎**: 1件の報告があり、国内での経口感染が推定されています。
- 4 **デング熱**: 2件の報告があり、どちらも渡航先(ベトナムおよびタイ)での感染が推定されています。
- 5 **レジオネラ症**: 肺炎型5件の報告がありましたが、明確な感染経路等は不明です。
- 6 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症6件の報告がありました。すべて国内での感染で、そのうち3件は異性間性的接触(異性間2件、詳細不明1件)、もう1件は経口感染、残る2件は感染経路等不明でした。
- 7 **ウイルス性肝炎**: 1件のC型肝炎の報告があり、感染経路等不明でした。
- 8 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 8件の報告がありましたが、院内集団感染等はありませんでした。
- 9 **クロイツフェルト・ヤコブ病**: 1件の古典型CJDの報告があり、診断の確実度はほぼ確実です。
- 10 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 1件の報告があり、創傷感染が推定されています。
- 11 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 無症状病原体保有者3件、AIDS 2件、その他2件の報告がありました。すべて国内での感染で、4件が同性間性的接触、2件が同性間または異性間、1件が異性間による感染でした。
- 12 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 8件(成人例5件(血清型判明は1件のみで3型)、幼児例3件(血清型24F型1

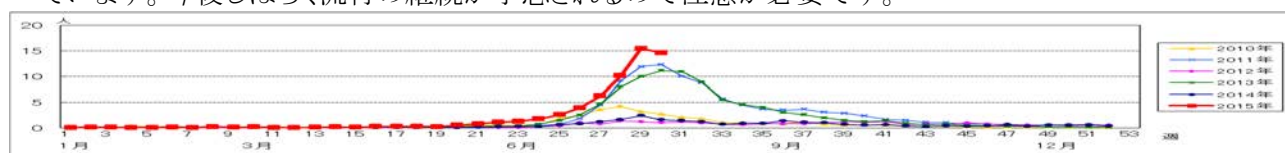
件、12F型2件))の報告がありました。そのうち幼児では全例予防接種歴(7価4回 2件、7価3回13価1回 1件)がありましたが、成人例ではすべて予防接種歴が確認できませんでした。

- 13 **水痘(入院例に限る)**: 2件の検査診断例の報告があり、1件は3歳で予防接種歴1回あり、もう1件は30歳代で予防接種歴不明でした。
- 14 **梅毒**: 早期顕症梅毒 I 期4件の報告がありました。すべて国内での異性間性的接触(異性間性交3件、経口1件)による感染が推定されています。
- 15 **風しん**: 幼児の検査診断例が1件(ワクチン接種歴1回有り)の報告がありました。[先天性風しん症候群](#) 予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。横浜市では、①妊娠を希望されている女性(妊娠中は接種できません)、②妊娠を希望されている女性のパートナー(婚姻関係は問いません)、③妊婦のパートナー(婚姻関係は問いません)、を対象に風しんの予防接種と抗体検査を実施しています。詳しくは[横浜市保健所ホームページ](#)をご参照ください。

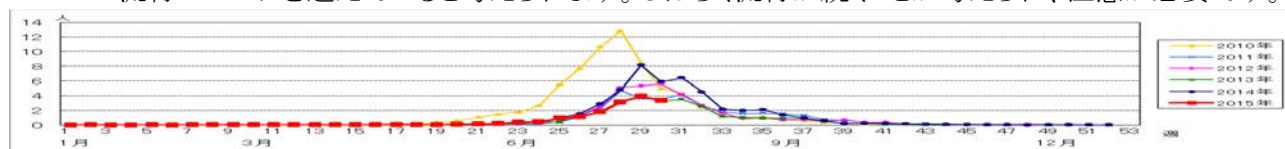
定点把握の対象

平成27年 週一月日対応表	
第26週	6月22日～6月28日
第27週	6月29日～7月 5日
第28週	7月 6日～7月12日
第29週	7月13日～7月19日
第30週	7月20日～7月26日

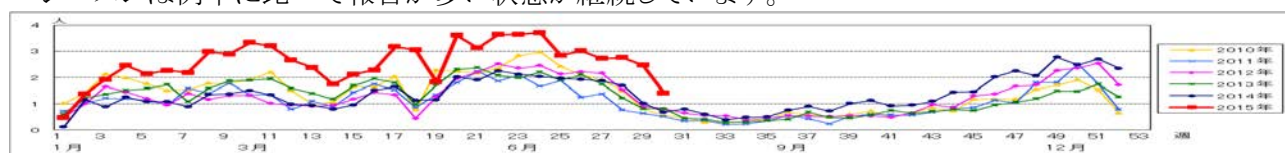
- 1 **手足口病**: 今シーズンは過去10年間で最大の流行となっています。市内の患者からは、コクサッキーウイルスA16(CA16)が検出されていますが、7月以降コクサッキーウイルスA6(CA6)が検出されています。CA6による手足口病では、かなり大きな水疱が四肢末端に限局せず広範囲に認められ、罹患1～2か月後に爪甲が脱落する症例も報告されています。今後しばらく流行の継続が予想されるので注意が必要です。



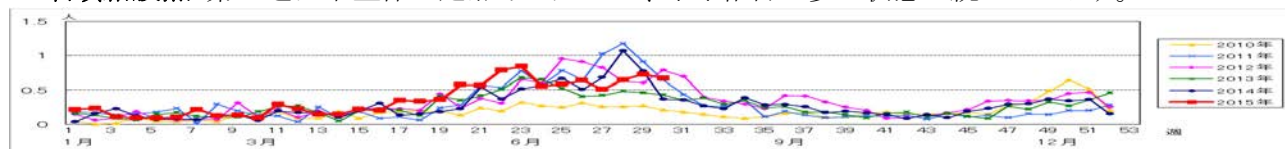
- 2 **ヘルパンギーナ**: 第30週は市全体で定点あたり3.38となっており、前週よりやや低下したものの、今シーズンの流行のピークを迎えていると考えられます。しばらく流行が続くことが考えられ、注意が必要です。



- 3 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第30週は市全体で定点あたり1.40と、前週に比べて減少しましたが、今シーズンは例年に比べて報告が多い状態が継続しています。



- 4 **咽頭結膜熱**: 第30週は市全体で定点あたり0.67と、やや報告の多い状態が続いています。



- 5 **性感染症**: 6月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が20件でした。性器ヘルペス感染症は男性が3件、女性が4件です。尖圭コンジローマは男性5件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が19件、女性が4件でした。
- 6 **基幹定点週報**: マイコプラズマ肺炎は第26週1.00、第27週0.33、第28週0.00、第29週1.00、第30週0.00となっています。細菌性髄膜炎は第26週に1件報告(原因菌不明)がありました。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 7 **基幹定点月報**: 6月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症8件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症6件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

7月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点26件、基幹定点10件で、眼科定点4件、定点外医療機関からは1件でした。

8月10日現在、表に示した各種ウイルスの分離株8件と遺伝子22件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(7月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	無菌性髄膜炎	発熱
アデノ 2型	1						
アデノ 3型	1						
パラインフルエンザ 3型	2	1					
パラインフルエンザ 4型	1						
RS	1	1					
ムンプス					2	1	
ライノ	3						
コクサッキー A2型	1					1	
コクサッキー A6型	2		4				
コクサッキー A10型	2			1			
コクサッキー A16型			4				
パレコ 4型							1
合計	1 13	2	4 4	1	2	2	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

7月の感染性胃腸炎は、基幹定点から2件、その他が21件で、腸管出血性大腸菌(O26:H11、O26:H-、O121:H19、O157:H7、O157:H-)が19件、サルモネラ(*S. Typhimurium*、*S. Nagoya*)が2件検出されました。

その他の感染症は小児科から2件、基幹定点から2件、その他が30件でした。A群溶血性レンサ球菌TB3264型は劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者から検出されました。*Legionella pneumophila*の血清型は1群、百日咳菌の血清型はI相でした。バンコマイシン耐性腸球菌はVanA遺伝子保有の*Enterococcus faecium*でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(7月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	7月			2015年1月～7月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌						1
腸管出血性大腸菌			19		1	37
腸管毒素原性大腸菌					1	
チフス菌						1
バラチフスA菌					6	5
サルモネラ		1	1		46	3
カンピロバクター						2
コレラ菌						1
不検出	0	1	1	1	21	14

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	7月			2015年1月～7月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌				3		4
T1						
T4				4		
T6				1		
T12				1		
T28				2		3
T B3264			1			1
型別不能	2			17		2
G群溶血性レンサ球菌						4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					7	32
バンコマイシン耐性腸球菌			1		1	2
<i>Legionella pneumophila</i>			1			4
インフルエンザ菌						7
肺炎球菌			6		1	66
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
結核菌			9			141
百日咳			1		1	2
その他		2	11		11	22
不検出	0	0	0	3	2	25

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】